

TIJ 日本語教育研究会通信

No.60 2016.6.3 発行

発行：TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 /Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



今年の5月は、夏日、真夏日が多い例年より暑い5月になりました。皆さま、いかがお過ごしですか。

TIJも設立25年目を迎えました。この4月には、ベトナム、中国、スリランカ、インドネシア、ミャンマー、マレーシアなど12か国から新入生64名が入学し、国際化がさらに進みました。

2月に行われた文化発表会では、上級クラスと中級4クラスがプレゼンテーション、中級クラスがスピーチ、初級クラスが全員で詩の暗唱をしましたが、どれも学生たちの熱意が伝わってくるいい発表でした。本号では、その発表内容と、指導者の感想と、審査をしてくださった先生の講評を掲載させていただきました。また、教育実習コースの修了レポートも掲載させていただきました。

【本号の内容】

1. TIJ文化発表会指導者より
 - ①プレゼンテーションの部を指導して
 - ②詩の暗唱を指導して
2. TIJ文化発表会優秀発表内容
 - ①プレゼンテーションの部
 - ②スピーチの部
 - ③詩「生きる」
3. TIJ文化発表会のこと（審査員より）
4. TIJ日本語教育実習コース修了レポート

TIJ文化発表会指導者より

—プレゼンテーションの部を指導して—

北内直子 (TIJ)

文化発表会で「プレゼンテーション」を行うようになって数年たちますが、実は毎年“違和感”を覚えていたのです。何かが違うと思いつつ、しかし発表まで漕ぎつけるのに必死で、あえて違和感の正体を突き詰めないできました。

今年も発表会の時期がやってきたとき、またあの“違和感”がムクムクと頭をもたげてきたのです。そもそもプレゼンテーションって何だろう、と。今までやってきたことはプレゼンテーションだったのだろうか、と。そして今年、その違和感は学生の一言で見事に晴れたのです。

お正月気分も抜けきらない1月中旬、準備の時間を設け、文化発表会の趣旨・準備の手順・昨年の発表の様子などをクラスで紹介し、今年はどうな内容がいいかしらね、などと発表について話し合っていたある日、それまでなんとなく浮かない顔をして話し合いに参加していた学生の一人が私のところにやってきました。「先生、今回の発表は、**プレゼンテーション**なのでしょうか。アカデミックなプレゼンテーションとは違いますね。**発表**と思ってやればいいのですね。」・・・その時、数年来の私の違和感の正体ははっきりわかったのです。それは、文化発表会の「プレゼンテーション」はいわゆる「プレゼンテーション」ではない、ということだったのです！

文化発表会の日には審査を務めてくださる方々から毎回ご講評をいただきます。「起承転結をはっきりと」「伝えたいことは何か」を明確にして発表するようにと言われてきました。

昨年もレベルの高い学生たちに恵まれ、意欲的な発表に仕上がりましたが、このテーマのどういう点に触発され何を調べどんな結論を得たか、という視点ははっきりしていなかったと思います。そこで、今年は「自分たちが興味を持った内容を皆さんに紹介する」というレベルを一段階引き上げ、「問題を提起し、答えの仮説を立て、それを検証する」というプロセスを学生たちに求めてみました。ただ、私の問いかけが不十分だったため、今年も「プレゼン」という名の「発表」になってしまった感がありますが、これは今後私が試行錯誤して取り組まなければならない課題です。

今回の「プレゼンテーション」の指導の過程で、認識を新たにすることがありました。

それは、グループワークの利点です。昨年の指導報告を見ると、グループワークでありながら分業で済ませた学生たちに苦言を呈していましたが、今回のクラスを見ると適材適所でそれもいいのかもしれないと思うようになりました。視聴覚資料の作成はそれに長けた学生が素晴らしい作品を作り、テーマ設定をした学生が原稿を書き、発表者は伝わるように何回も練習していい発表にしようとする。この努力の結集はグループワークならではの得られるものではないでしょうか。近年アクティブラーニ

ングの重要性が教育の場で叫ばれており、私も多方向のやり取りを心がけていますが、グループワークはまさに能動的学習だと実感できました。実はクラス予選で惜しくも選ばれなかったチームが意欲的なテーマを選んできていました。「日本の福祉制度について」です。教科書だか、新聞だかの授業でこのテーマを知り、自国とはまるで違うシステムに興味を持ったらしく、日頃まじめな取り組みを見せることが少ない彼らがこんな堅いテーマに挑戦するなんて、と内心驚きました。授業で得た知識を自ら広げ掘り下げようとした姿勢は、私には嬉しい誤算でした。

今年の審査講評で、プレゼンテーションという形態は文化発表会に向いている、自分の学校でもやってみたいという感想をいただきました。来年はもう少し本物の「プレゼンテーション」に近づけるよう、工夫を重ねてみようとは今からわくわくしています。

—詩の暗唱を指導して—

山西麻里 (TIJ)

今年の文化発表会で初中級、初級 3、初級 2A、初級 2B の学生全員で詩の暗唱を行いました。

初級の学生でも覚えやすく、内容もわかりやすいものとして谷川俊太郎の「生きる」を選びました。その詩を 4 つのパートに分けて各クラス 1 パートを暗唱してもらうことにしました。さらにそのパートの中からソロの部分を作り、各クラス 4~5 名ソロで暗唱してもらうことにしました。

まず試しに初級 3 のクラスで詩を紹介しました。内容の説明は中国語と英語の翻訳がインターネットにありましたので、それを使用しました。学生の反応は思ったよりもよく、彼らの方から「とてもいい詩だと思う。」「どんな気持ちで言えればいいか。」など楽しもうという前向きな反応でした。ソロを決める時も普段は積極的に手を上げない学生が自らやりたいと言ってあっという間に決まりました。

詩を覚えさせるまでは何とかできましたが、全体練習は思うようにいかず、発音が悪い、棒読み、リズムが合わないなど様々な改善点が出てきました。練習を始める前に教師側で完成度をきちんと決めずにクラス練習を進めてしまったことがよくなかったと思います。また部屋が狭くみんな練習ができないので、2 回目の練習からは新小岩公園へ行って練習しました。冬の寒い中、外で練習ができるのだろうかかと心配もしましたが、1 日目は気持ちのいい天気、とてもいい練習ができました。2 日目は残念ながら気温も低く風も強かったので、練習らしい練習になりませんでした。しかし多くの先生方のご指導のおかげで、リズムの取り方や間の取り方なども上手にできるようになり、少しずつ形になってきました。舞台の立ち位置についてはなかなか決まらず前日まで変更し練習してもまだ決まらず、本番はどうなるのだろうかかと非常に不安なまま本番を迎えました。

詩の暗唱の時間になり、学生を舞台まで案内しましたが予想より舞台が狭く、学生全員を舞台に上げるのに時間がかかってしまいました。またスライドで詩を見せる予定でしたが、パソコンの調子が悪くフリーズしてしまうなどいろいろなハプニングがありま

したが、学生の詩の暗唱ははっきりとした大きい声で相手に伝えようという気持ちがわかるとても素晴らしい暗唱でした。多くの方からも拍手をいただくことができました。

終了後の学生たちの満足そうな表情が印象的でした。初級の学生でもこのような場所で日本語を発表する機会はやはり必要なのだと思いました。これからも初級者による詩の暗唱を続けてほしいです。

TIJ 文化発表会優秀発表内容

プレゼンテーションの部第一位

— 第一位「相撲」 —

作成・発表メンバー：クアン、文、スランガ、テュイ

日本で留学生活をしている皆さん

日本の文化や伝統についてどのぐらい知っていますか？

どのぐらい興味を持っていますか？

その中で日本の国技であるのに、最近では日本の若者さえも興味がなくなって残念だと感じられる‘相撲’について一緒に見てみましょう。

1. 歴史
2. 相撲力士の生活
3. 寿命、引退後、給料
4. 相撲に似ている各国のスポーツ
5. 結論

1. 歴史

国技といわれ、日本の伝統文化である相撲。

日本の文化に深く根ざし、いつも人々の生活とともにあった相撲。

相撲は人間の戦いたいという本能である力くらべや取っ組み合いから発生した伝統あるスポーツです。これによく似た形態のスポーツは昔から世界各地で行われています。相撲はその年の農作物の収穫を占う祭りの儀式として、毎年行われてきました。これが後に 300 年続くこととなります。

江戸時代に入ると相撲を職業とする人たちが現れ、全国で勧進相撲が行われるようになり、江戸時代中期には定期的に相撲が興行されるようになりました。

大相撲は、長い歴史の中で次第にルール化され、洗練され、様式化されてスポーツとしての形態を整え、日本の固有の伝統文化となりました。

相撲には歴史・文化・神事・競技など様々な側面があり、それぞれ奥深い要素を持っています。

2. 相撲力士の生活

一般的な 1 日

本場所のない日や試合に出ていない日は、大体、相撲部屋で過ごしています。関取や力士も毎日稽古を行い、力士として力を磨いています。以下に本場所のない普段の日のスケジュールの一例を紹介します。

起床時間：5時

朝5時に起きたら11時まで何も食べないで順に稽古を行います。関取は同じレベルの仲間と行います。関取に稽古をつけてもらったなら、ひしゃくで水をつけ「感謝の意」を表します。自分が直接相撲を取らないときは、他の力士の稽古を見て相撲を勉強します。

風呂・食事：11-13時

番付の上位順に風呂に入ります。付け人は関取の体を流したりします。食事も上位の力士が先です。関取が食事するときは、付け人が近くについて給仕をします。

昼寝：15時～15時半

30分程度自由に過ごし、大体の力士が3時～3時半くらいまで昼寝をします。

自由時間：

昼寝の後は自由です。関取は外出の用事がなければまったくの自由時間です。部屋の掃除をしたり、付け人としての仕事をします。清掃番でもちゃんこ番でも付け人の当番でもなければ、自由に過ごします。外出も自由です。

夕食：17時半～18時半です。

夕食後自由な時間となります。付け人は付け人としての務めを果たします。部屋によっては門限時間がありますのでそれまでには帰るようにします。

力士になるためこのスケジュールは始めから引退するまで行われます。

活動中には家族にあまり会えないそうです。

3. 寿命・引退後・給料

3.1 給料・寿命

レベルに応じて給料が決まります。相撲力士のレベルは5段階に分かれています。

横綱の月収：338万円

大関の月収：280万円

関脇/小結の月収：203万円

十両の月収：124万円

幕下の月収：108万円

これは普通の仕事に比べてとても高いです。サラリーマンの月収は25万円ぐらいです。これは若い人が相撲力士になるひとつの理由です。

しかし相撲力士は寿命が短いそうです。平均寿命は65歳、一方日本人の平均寿命は80歳ということです。

3.2 引退後の生活

力士が引退すると親方になる人以外はちゃんこ屋かプロレスラーになる、と思われがちですが、転職先は実に様々です。ちゃんこ店や飲食店経営、プロレスラー以外の仕事で

頑張っている元力士もいます。海鵬はジムを経営しています。舞の海はスポーツキャスターとして活躍しています。

4. 相撲に似ている各国のスポーツ

4.1 ベトナムの DAU VAT

ベトナム書紀によると約 1225 年から DAU VAT が行われてきました。相手にけがをさせないように戦うことがルールです。

現在、スポーツとしても行われていますが、旧暦のお正月に 1 年中元氣ですごせるようにと村の伝統として行われています。

4.2 韓国のシルム

シルム（韓国式相撲）は韓国 5 千年の歴史と共に歩んできた民族競技です。昔から端午の節句、日本のお盆に当たる秋夕のような年中行事の際には村の人々が広場の砂場などに集まりシルムを行いました。

現在のシルムは 1912 年に最初に行われました。日本と違ってまわしの下にショートパンツをはいて行います。

4.3 スリランカ

スリランカで相撲に似ているスポーツがあります。それは アンガンプラ サタナ という名前です。1200 年ぐらい前からスリランカで 4 月のお正月の時に行われています。以前は人気がないスポーツと言われていましたが、今はすごく人気が出ています。ナイフや棒を持って行うこともあります。

5. 結論

このように相撲は日本の伝統文化の一つであり、代表な人気スポーツです。日本人に、世界の人々に愛されている相撲について皆さんも興味を持って一歩近づいて見るのはいかがでしょうか。

— 第二位「桜」 —

作成・発表メンバー：ルアン、イブ、コアット、ニャー、金

こんにちは、私は中上級クラスのコアットと申します。本日クラス代表として桜について発表させていただきます。

日本人はみな桜が好きですね。春の花見にとっても期待していますが、留学生にとってはこれがとても不思議です。そこで今回桜をテーマに選びました。

みなさん、桜はどんなもののでしょうか、どうして桜は国花と呼ばれていますか？これからみなさんと具体的に調べていきましょう。

歴史

種類

季節

文化と人気

結論

まず歴史からですね。

桜は元々日本に古くから自生していますが、平安時代(8世紀-12世紀)国の慣習と文化の影響で幅広く知られて、人気が高まりました。最初に記述されたものでは西暦約800年ごろ。その時嵯峨天皇が最初の花見の会を開きました。その後花見の会が大きな街で一般的に行われるようになりました。

みなさん、日本では神社とかお寺などの前に桜が植えられているのをよく見ますね。それは豊臣秀吉が京都醍醐寺に700本の桜を植えさせたのに由来します。そして、1598年4月20日に豪華な花見の宴を行ないました。1200年以上前から花見が続いていると思うと感慨深いです。次は種類です。

種類について発表します。日本では桜が300種類以上あります。こちらは桜の写真です。桜の色がたくさんありますよね。濃いピンクとか、薄いピンクとか、白に見えるピンクとか、それに、桜の姿も様々、綺麗ですね。これから、代表的な種類をご紹介します。一番目はソメイヨシノです。この種類は日本で一番種類が多く人気があります。それで、お花見でよく見る種類です。二番目は山桜です。この種類は日本の象徴とされている桜です。三番目は江戸彼岸です。この種類は1000年以上生きている野生の長寿の桜です。皆さん、どんな桜が一番好きでしょうか。私は、山桜が一番好きです。

次は季節です。日本の中でも種類と地域によって開花時期が違います。桜は春に咲きます。日本の地方によって天気が違って、南の沖縄は暖かいので一番早く3月中旬に咲きます。次に、九州、四国、関東、東北、あと北海道地方は寒いので一番遅く5月に咲きます。それで、皆さんはお花見に行きたかったら、日本の南から北まで行けますよね。桜のお花見は毎年3月末から4月上旬まで行います。

開花期間は短く2週間ぐらいです。種類と天気によって、開花期間が違います。一番長く咲いている期間は3週間ほどです。それに、満開になるのは本当に一瞬だけです。この時は桜の一番綺麗な時です。それで、この時はお花見に行く機会が一番ですね。あと温度の変化や雨や風などに晒されると早く散ってしまいます。

昔から桜は日本の文化に深く関係してきました。日本の文化の写真にはだいたい桜の花があります。学校、お寺、皇居などにも桜の花があります。お祝いの袋にまで桜が飾られています。毎日使う100円玉にもデザインされています。

昔から、生まれるなら侍のような人として生まれたい、花だったら桜のような花になりたいと言われました。スライドを見ても分かりますがこの時代のお花見は武士など身分の高い人のものでした。

これは今のお花見のお祭りです。お祭りにみんなが集まって一緒に食べたり、飲んだりおしゃべりしたりして桜を楽しみます。このことは本当に日本人の伝統になりました。

最後に今回、私たちが桜について調べた結論をまとめてみました。

どうして桜は日本の国花になったのでしょうか。

それは、一つの風景、一つの象徴、一つの精神として桜は日本の文化に深く溶け込んでいるからだと思います。外国人にとってはきれいな満開が一番ですが、日本人は散る時にも風情を感じるということがわかりました。

美しく咲いて美しく散る、日本人は桜の姿に自分の人生を例えていると思います。

皆さんも、ぜひ短い桜の季節を楽しんでみてください。

スピーチの部

—第二位「新しい道」—

フィ ティ トウ フォン

もし、夢を実現するのにチャンスがあったら、あなたは掴みたいですか。

私はもう掴んでいます。このチャンスは新しい知識の道を開いてくれました。

2015年3月25日に日本へ来ました。私は日本へ来る道を選びました。みなさんはなぜ私が日本へ来たと思いますか。理由は本当に日本が好きだからです。単純ですね。中学2年生の時から、日本に興味を持っていました。そのとき、日本のカレンダーで、日本の女の子の人が着物を着ている写真を見ました。本当にきれいだったので、日本へ行きたいと思いました。

現在私は留学生として日本へ来ています。みなさんは国にいるときに日本の留学生についていろいろ聞いたかもしれません。例えば、アルバイトをしながら学校に行くとか、生活が大変だとか、つらい目にあうとかです。すべて本当のことです。

ベトナムでは大変なことはあまりありませんでした。では、どうして、こんなに違うのでしょうか。日本へ来たあと、私はいろいろなことがわかってきました。それは日本の生活とベトナムの生活がとても違うからです。特に文化が違います。

例えば、ベトナムでは大学生になってから思考を伸ばすために自分でアルバイトをしながら学校に行っています。反対に日本では、子どものころから自立の方法を学んでいます。だから、大人になるとき、生活が大変でも、いつも決心が堅いです。

その他、日本の生活はテンポが速いし、仕事でも熱心だし、交通も便利だし、いつも忙しいので、暇な時間も少ないです。そのため、日本は経済が発展したと思います。そして、教育は世界のリーダーだと思います。

全てのことは日本から学習したほうが良いと思います。日本へ来たあと、日本人と同じような経験をすることによっていろいろわかるようになりました。国で読んだ本だけではよくわかりませんでした。

留学生の生活はつらいですが、私にとってはいいです。日本へ来たあと、もっと視野が広がりました。「時は金なり」ということがわかりました。

みなさんも自分の夢を実際のいろいろな経験を通して実現させてほしいと思います。がんばってください。

詩「生きる」

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみすること
あなたと手をつなぐこと

生きているということ
いま生きているということ
それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ
それはアルプス
すべての美しいものに出会うということ
そして
かくされた悪を注意深くこぼむこと

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

生きているということ
いま生きているということ

TIJ文化発表会のこと

中 島 宏 (審査員)

毎年、冬の寒さが緩むころ、文化発表会のご案内をいただき、たのしみに新小岩地区センターに伺っています。この会が素晴らしいのは、プレゼンテーションやスピーチだけでなく、TIJ の学生が総出で会場を造り、運営し、来客をもてなして居るところです。手作りの良さと学生諸君の若い息吹が充満した会場の雰囲気は、最近あまり経験できな

い素晴らしいものです。

ただ今年も、例年会場の中心にあった、満足げに、穏やかな笑みを浮かべた前TIJ理事長の徳倉眞治氏のお姿をお見受けできなかつたのが、何とも寂しい限りでした。あらためて同氏のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

さて、今年伺ってまず驚かされたのは、学生の国籍が多様化したことです。中国以外の国の市場開拓に努められた成果ということに尽きるのですが、学生の多国籍化で、発表会が以前にも増して充実したように感じました。中国の学生を現地で見ていると、知識を蓄えるためにしっかり勉強するのですが、その知識を使って現状を分析し、問題点を指摘し、対策を打ち出すという姿勢にいささか欠けています。社会生活で、「現状を受け入れ、力を合わせて一層発展させて行こう」という基本的な行動文化に由来するものなのでしょう。そのためプレゼンテーションも、ややもすると物事の紹介に止まっていました。

ところが今年も、まずテーマの選択が、従来多かった故郷由来のものから、「着物」、「温泉」、「相撲」など日本由来のものに変わりました。そのうえ、テーマに対する取り組みも、以前のナレイティブなものから、メンバー全員で議論し取りまとめた跡が見える独創的なものになっていました。その良い例が「星座」を扱ったプレゼンテーションではないでしょうか。

一方、問題点を挙げるならば、発表会の後の講評でも指摘されていたように、課題の展開が「起承転結」に欠けていた点でしょう。これは日本の学生のレポート等にもよく見られる点で、先生方に適切なご指導をお願いしなくてはならないことになるのですが、そもそも今はやりの、パワーポイントを使ったプレゼンテーションに原因があると思います。以前はレジュメと称する発表内容の骨子を、一枚の紙にまとめた文書を掲げてプレゼンテーションを進めたので、発表の意図と主張が一貫して理解できたのですが、パワーポイントを使うようになって、魅力的な写真、数表、レイアウトなどが駆使できるようになったため、これらの多用によってプレゼンテーションの展開が冗長で、主張が一貫性に欠ける傾向にあります。

プレゼンテーションは、企業の会議にあっても重要なもので、各社工夫して、会議の効率化を図っています。そこでTIJには「文化発表会」という素晴らしい機会があるので、先生方にサポートしていただいて、日本の企業文化であるプレゼンテーションの技を、学生に体験し、身に付けてもらってはどうか。具体的な方法は、A3の用紙を横型に使い、これを4～9個の枠に分け、それぞれに起承転結に相当する記事をまとめるやり方で、トヨタが編み出した管理手法の一つとされています。

すなわちこの手法は、企業で現状打破や新規戦略を具体化するために使われるものな

ので、①問題の指摘、②業界と自社の比較、③具体的目標の設定、④目標を達成するための戦略、⑤実行計画、⑥予算と損益と言ったような枠組みになりますが、TIJ のプレゼンテーションでは、①課題の具体化、②なぜ課題としたか、③課題に対する疑問、驚き、④課題の分析、⑤見えてきたもの、⑥課題に対する新しい評価と言ったように変えて活用したらどうでしょうか。

限られた紙面でこの手法を説明することは不可能なので、ネットで「トヨタ流文書」とか、「A3 資料の作り方」などを検索すると、その概要が分かりますし、「世界一シンプルで世界一成果が上がるトヨタ流仕事の教科書（石井住枝著）」などの書籍もありますので、ご参考ください。お忙しい先生方にはご負担になるので恐縮ですが、すべてのことに真剣に取り組む日本流の一端を、学生に披露できる機会を大切にできないかと思い、提案する次第です。

日本語教育実習コース修了レポート

水口幸子

この4月からの春学期、TIJ で教育実習を受けさせていただいた。

昨年実施の日本語教育能力検定試験に合格することができ、今年の内めから実習をさせていただける学校探しを始めた。実習コースは数日間という学校が多い中、週3回5週間。計15日間、たくさんの授業見学をしながらのTIJの実習に魅力を感じ、迷わず連絡をさせていただいた。

4月スタートの初級クラスを中心に、8名の先生による28もの授業を見学させていただいた。

全く指導経験のなかった私にとって、この授業見学は本当に一生の宝になるほどの意味のある貴重な体験となった。どの先生の授業もきっちりとした授業構成がされていることは当然ながら、その上に楽しい雰囲気も醸し出しつつ、且つそれぞれの先生の個性も随所にちりばめられており、90分の授業もあっという間に楽しく流れるように感じられることが、授業見学中は本当に多かった。

その授業見学の間に3回の実習（授業）をさせていただいた。

まず授業の進め方について広瀬所長からご指導いただいた。その後、市川先生の教案指導を2回していただき、実習準備（指導）を手伝っていただき、実際に授業、という流れだ。

教案指導の際に市川先生から‘日本語授業とはいかなるものか’について良い授業を作り上げる際のヒントになる印象的な言葉をたくさん頂いた。中でも『教科書を立体化する』『最終に目指すところをしっかりと意識して』という言葉は3回の実習を終え、なぜ

うまく授業ができなかったか。という原因を反省・考察する際にずばり答えとなる言葉だった。

実習では、緊張で声が小さくなる、キューがうまくだせない、ホワイトボードの使い方が良くない、字が小さい、拗音の書き方がわかりにくい。話題が唐突である、フラッシュカードの扱いがおぼつかない、時間配分が良くない等々、たくさんの改善が必要な問題が山のようにあった。市川先生と佐々木先生からは、これらの問題点への改善方法は『慣れ』も大事であるという心優しいご指導をいただき、一日でも早く慣れるようにただただがんばろうと思いを新たにしました。

この山のような問題点は慣れる事・工夫していくことで克服していく所存だが、『教科書を立体化する』『最終に目指すところをしっかりと意識して』という事は、授業の前の段階、骨組みのしっかりとした授業案を練り上げる際に私が常に意識しなければならない事だ。現状では枝葉末節に気がとられてしまうことが多々あり、何が大事かという事を見失いがちであるからだ。それを防ぐためには市川先生からもご指摘いただいたが、教科書分析が最も大切なことである。これは実習の失敗を通し痛切に実感した。その分析がしっかりできていれば、授業案どおりに進まない事態が起きても、瞬時に判断調整し、授業を組みなおすことが可能になるからだ。

15日間の実習を終えた今、授業見学をさせていただいた先生方の流れるような楽しい授業は、しっかりとした教科書分析に裏打ちされた創意工夫の塊だったことに気がつき、ただただ感嘆の思いがあるばかりだ。

これから一人前の日本語教師になるまで、長い長い長い時間が掛かると思われるが、このTIJの実習中で実感した事、ご指導いただき頂いた言葉などを常に心に置き、学生たちと共に楽しく良い授業を作っていけるよう日々精進する所存だ。

TIJで実習を受けさせていただいて本当に良かったと心から思っている。

最後に・・・

広瀬所長、実習を暖かくご指導いただいた市川先生、貴重なアドバイスをいただいた佐々木先生、授業見学をさせていただいた歌原先生、原田先生、石井先生、山西先生、阿字地先生、北内先生、本当にありがとうございました。どの先生の授業もそれぞれの先生ならではの素晴らしい授業で、時にはノートをとる事を忘れて学生気分楽しく授業を受けてしまう事もありました。木村先生にも休憩時間に貴重なお話をたくさんしていただき本当に感謝しております。本当にありがとうございました。